

# マイクロスケール醸造を取り入れた醸造用ブドウの 選抜期間の短縮（R8～10）

## 背景・目的

- 醸造用ブドウの育種は果実選抜後にワイン品質で選抜するため、他樹種に比べ育種年限が長くなる。
- これまでワイン品質の評価には最低20kg程度の果実が必要であり、果実選抜後に複製樹を作成し果実を確保してから醸造してきた。
- 近年では醸造技術の進歩により、さらに少量の果実でもワイン品質の評価が可能となっている。
- そこで、育種年限の大幅な短縮を図るため、整枝法による実生の初期収量の違いを明らかにするとともに、実生1樹の果実でマイクロスケール醸造しワイン品質の評価が可能か検討する。それにより早期にワイン選抜を実施するシステムを確立する。

## ワイン評価方法

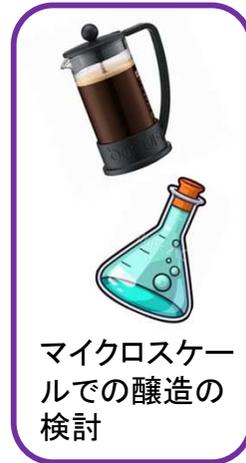
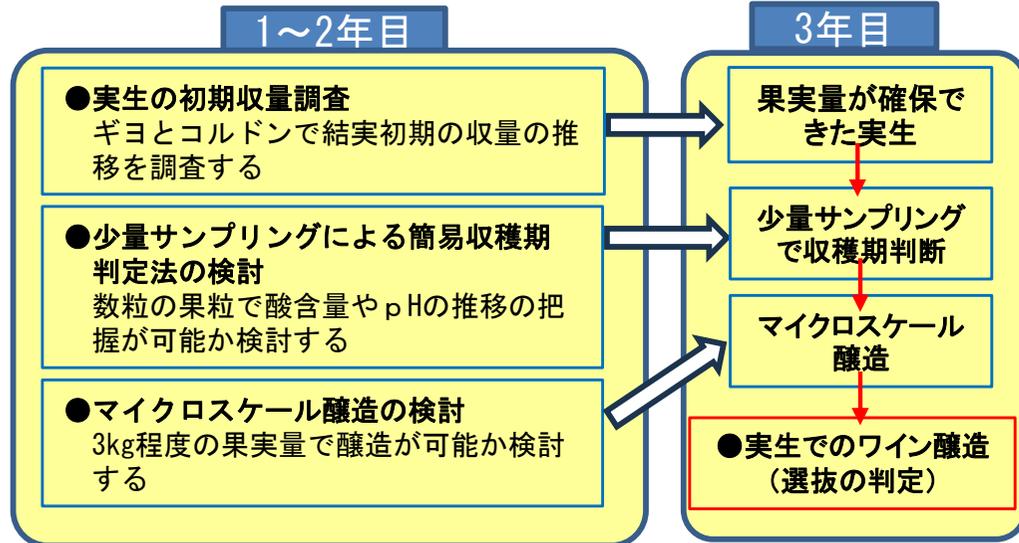
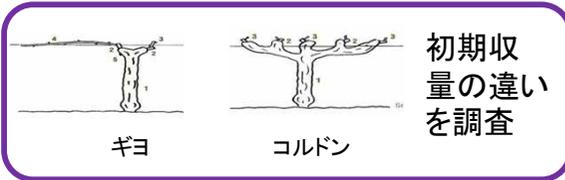
### ○慣行の方法

- 垣根2kg × 10樹=20kg → ワイン10L (約14本)
- 棚短梢50kg × 1樹=50kg → ワイン25L (約35本)

### ○新たな方法

- 垣根実生1樹3kg → ワイン1.5L (約2本)

## 研究内容



## 期待される効果

- ・育種年限が最大で6年短縮される。
- ・それにより、これまで以上に生産現場や消費者のニーズに沿った効率的な育種が可能となり、山梨県のワイン産業の維持発展に貢献でき「ワイン県」としての価値も高められる。
- ・耐病性品種が注目されるなど交雑品種は世界的に見直されている。山梨県における主要欧州系品種の生産量はシャルドネ93t、メルロ105t、カベルネソーヴィニヨン75tで、これらの一部が育成品種に置き換わることが期待される。

\* R6ソノワール苗木供給本数：1,634本  
\* R6ワイン酒造組合加入企業数：94件